

## HTMLを表示するソフトがWebブラウザ

Webブラウザとは、ホームページをみるソフトです。もう少し詳しく定義すると、HTMLを解析して、画面に表示するソフトです。

## ホームページを構成するファイル

実際のホームページは、HTMLだけでなく、複数のファイル（CSSファイル、画像ファイル、JavaScriptファイルなど）で構成されています。これらのファイルが、一体となってホームページができています。

Webブラウザは、これらのHTML以外のファイルも読み込みます。

## Webブラウザの機能

このようにWebブラウザは、HTMLを表示するだけではありません。機能をざっとあげてみましょう。

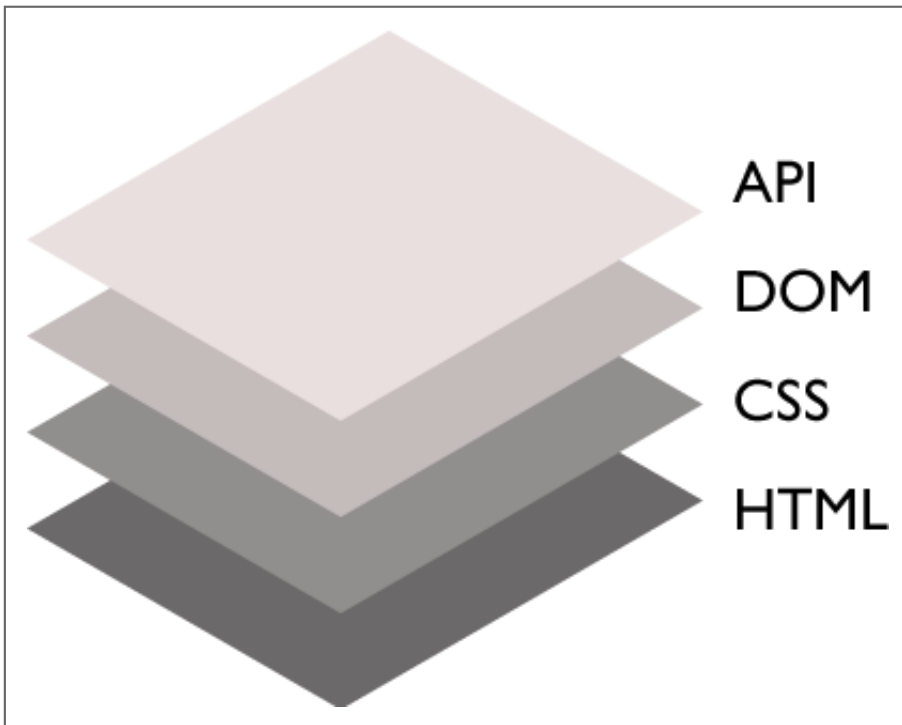
- Webサーバーにリクエストをして、ページを要求する機能
- HTMLを解析して画面に表示する機能
- CSSを解析して、HTMLをレイアウトしたり、装飾したりする機能
- JavaScriptを読み込んで、実行する機能
- 画像を表示する機能
- 音やビデオの再生
- データベース機能
- 位置情報の取得
- カメラからデータを取得

実に多彩な機能をもっていることがわかります。

## Webブラウザの技術構造は4階層

Webブラウザの技術は、4階層に分かれているのが特徴です。この階層をレイヤーと呼ぶこともあります。

**このWebブラウザ側のことをフロントエンドと呼びます。** Web制作の現場では、フロントエンドエンジニアという職種が存在します。



難しそうにみえます。完全に理解したり、覚える必要はありません。

1階がHTML、2階がCSS、3階がDOM、4階がAPIです。それぞれ役割があります。HTMLはページのデータ、CSSはデザイン、DOMは動き、APIは高度な機能（位置情報、データベース、ドラッグアンドドロップ、ビデオ、サウンド）です。

HTMLが構造です。CSSでレイアウトしたり、色をつけたり、背景画像をいれたりします。DOMは、クリックすると、ページがスクロールしたり、画面の一部がフェードインしたりします。APIは、店舗検索をして、地図を表示するときに、位置情報の許可をもとめられます。

このAPIはHTML5で導入された機能です。従来のHTMLにはなかったレイヤーです。DOMとAPIでは、JavaScriptという言葉をつかいます。 **レイヤーが重なるごとに、機能が高機能になるイメージです。**

このAPIの登場で、Webブラウザは、単にHTML文書を見るソフトから、アプリケーションを実行できる基本ソフトのような役割にかわってきました。

この講座では、HTMLとCSSを学びます。この2つさえ学べば、見栄えのあるホームページをつくることができます。

HTMLのレイヤーは必須レイヤーです。最低限、HTMLだけでもホームページはつくれるようになっています。

今回はここまでです。 [次回に続きます。](#)